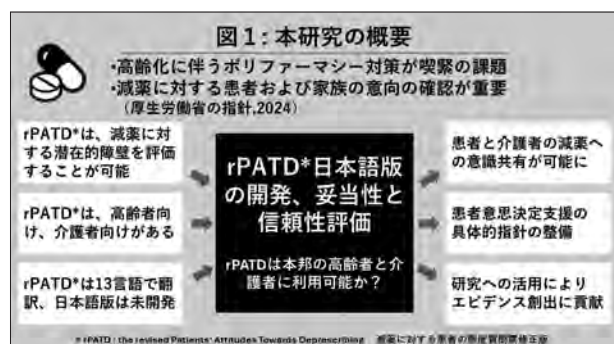


# 減薬に対する患者態度質問票修正版(the revised Patients' Attitudes Towards Deprescribing (rPATD))高齢者および介護者向け日本語版の妥当性および信頼性の検討

石井 充章 ●北海道科学大学 薬学部薬学科 臨床薬学部門 薬物治療学分野



## 地域医療貢献のポイント

高齢者の多剤併用の適正化(減薬)を進めるには、高齢者本人とその介護者の意向を的確に把握することが不可欠である。本研究では、高齢者および介護者の減薬態度評価票の日本語版を開発し、安全な薬物療法を支える仕組みづくりを目指す。

## 1. 背景と目的

我が国では高齢化が急速に進展しており、高齢者の薬物治療の適正化が重要な課題となっている。高齢者は複数の慢性疾患を抱えやすく、その結果として多剤併用(ポリファーマシー)が生じやすい。これにより副作用や相互作用のリスクが高まり、処方適正化(減薬)の推進が求められている。厚生労働省は2018年に高齢者の医薬品適正使用指針を示し、2024年には病院や地域医療における具体策を改定した。その中では、患者や介護者との信頼関係を築き、減薬に対する意向を確認することの重要性が示されている。一方、海外では患者本人に加え介護者の視点も取り入れた減薬への潜在的な障壁を含めた態度を把握できる評価ツール(rPATD)が開発されている。rPATDは13カ国語に翻訳され、24カ国で広く活用さ

れているが、日本語版は存在しない。本研究は、日本語版rPATDを開発し、介護者と医療従事者の情報共有を促進し、高齢者の安全な薬物療法の支援を目的とする(図1)。

## 2. 取り組みの方法

本研究は、高齢者向けおよび介護者向けrPATDについて、尺度翻訳の国際ガイドライン(Wild, 2005)に準拠して日本語版を作成し、妥当性および信頼性を検証するものである。そのうち本件では、要介護認定を受けた65歳以上の高齢者を介護する20歳以上の成人を対象に、オンラインによる自記式質問票調査を実施する。得られたデータに対して計量心理学的手法を用い、rPATD日本語版(介護者向け)の妥当性および信頼性を評価する。

## 3. 期待される成果

### ●臨床現場で減薬を進めるための新たな評価ツールの提供

rPATD日本語版を活用することで、高齢者や介護者の減薬への態度を定量的に把握でき、医療従事者による減薬判断の支援ツールとして活用が期待される。

### ●患者・介護者の減薬の意思を医療従事者と共有するツールの提供

高齢者や介護者の減薬に対する態度を理解することで、医療従事者が本人や家族と意見を共有しやすくなり、信頼関係の構築と医療の質の向上が期待される。

### ●高齢者の処方適正化を進める基盤となる

減薬の障壁となる要因を明らかにし、安全で適切な薬物治療の実現に向けた具体策の立案に寄与し、地域住民の健康向上に貢献することが期待される。